

# チームでサポート 乳がんの診断と治療

乳腺外科 主任医長 やない あやこ 柳井 亜矢子



## Q.1 乳がんはどのような病気ですか

乳がんは乳腺の組織にできるがんで、多くは乳管という母乳を乳頭まで運ぶ細い管から発生しますが、一部は乳腺小葉という

兵庫医科大学大学院にて乳がんの研究で医学博士を取得。初期臨床研修の後、兵庫医科大学病院と関西労災病院勤務を経て、令和2(2020)年4月から当院へ赴任。

昨年1月乳腺外科を開設し、乳腺専門医2人体制で診療を行う。院内の各診療科と連携しながら、乳がん看護認定看護師、リンパ浮腫セラピスト、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、管理栄養士などとともに、乳がんの疾患に対する診断、治療を総合的にケアするプレストケアチームで治療を行っている。

母乳を作るところから発生します。がん細胞が乳管や乳腺小葉にとどまっている状態を非浸潤がん、乳管や小葉から周囲に広がった状態を浸潤がんと呼びます。浸潤がんの場合、乳房だけでなくまわりの時間の経過とともにリンパ節や骨、肺、肝臓などさまざまな臓器へ転移する可能性があります。

## Q.2 どのような症状がみられますか

主な症状は乳房のしこりです。その他、皮膚のひきつれ、乳房の形が左右非対称になる、乳頭から血液の混じった分泌物が出る、乳頭のただれなどがあります。

## Q.3 市立病院では、どのような検査をしますか？

まず問診、視触診、マンモグラフィ(乳房専用のX線検査)、超音波検査を行います。これらの結果から、良性または悪性の区別がつかない場合や乳がんの疑いがある場合は、細胞や組織の一部を採取して顕微鏡で調べる病理検査を行います。その他、MRIやCT検査をすることもあります。

## Q.4 治療方法について教えてください

乳がんの進行程度(ステージ)や乳がんのタイプに応じて、患者さんの希望を尊重しながら、手術や放射線治療、薬物治療を検討し、適切な順序で治療を行います。手術

によって部分切除や全切除した乳房の再建を希望する場合は、形成外科医と連携し再建手術を行います。

薬物治療は手術前に抗がん剤治療をして腫瘍を小さくしてから手術する術前薬物療法や術後に再発を抑えるために術後薬物療法、再発後に行う薬物療法があります。放射線治療は、術後に再発を抑えるための術後放射線治療や再発した部位に症状緩和を目的として行う緩和照射などがあります。

## Q.5 最後にひとことお願いします

当院ではプレストケアチーム(乳がん診療チーム)を結成し、多職種で連携を密にして、総合的なケアでそれぞれの患者さんに合った治療に取り組んでいます。何らかの異常に気づいたら、まずはかかりつけ医を受診し、かかりつけ医からの紹介状を持って当院を受診してください。



手術を行う柳井主任医長(右)